

令和4年白老町議会定例会12月会議会議録（第3号）

令和4年12月15日（木曜日）

開 議 午前10時00分

散 会 午後 1時33分

○議事日程 第3号

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 一般質問

○会議に付した事件

一般質問

○出席議員（13名）

1番 久保一美君	2番 広地紀彰君
3番 佐藤雄大君	5番 西田祐子君
6番 前田博之君	7番 森哲也君
8番 大淵紀夫君	9番 吉谷一孝君
10番 小西秀延君	11番 及川保君
12番 長谷川かおり君	13番 氏家裕治君
14番 松田謙吾君	

○欠席議員（1名）

4番 貳又聖規君

○会議録署名議員

6番 前田博之君	7番 森哲也君
8番 大淵紀夫君	

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	戸田安彦君
副 町 長	古俣博之君
副 町 長	竹田敏雄君
教 育 長	安藤尚志君
総 務 課 長	高尾利弘君
企 画 財 政 課 長	大塩英男君
政 策 推 進 課 長	富川英孝君

産業経済課長	工藤智寿君
町民課長	久保雅計君
健康福祉課長	下河勇生君
学校教育課長	鈴木徳子君
生涯学習課長	伊藤信幸君
消防長	後藤悟君
病院事務長	村上弘光君
産業経済課参事	齋藤大輔君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長	本間力君
主査	八木橋直紀君

◎開議の宣告

○議長（松田謙吾君） ただいまから昨日に引き続き議会を開催いたします。
これより本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎会議録署名議員の指名

○議長（松田謙吾君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第109条の規定により、議長において、6番、前田博之議員、7番、森哲也議員、8番、大淵紀夫議員を指名いたします。よろしく願いいたします。

◎一般質問

○議長（松田謙吾君） 日程第2、昨日に引き続き一般質問を続行いたします。
通告順に従って発言を許可いたします。

◇ 及 川 保 君

○議長（松田謙吾君） 11番、会派みらい、及川保議員、登壇を願います。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、会派みらい、及川保でございます。戸田町長におかれましては、本日が一般質問の最終日になりました。どうぞまたよろしく願いいたします。

まず、1つ目であります。

1、産業振興について。

（1）、長引くコロナ禍とウクライナ情勢が地域経済や町民生活に大きな影響を与えているが町内の産業経済全般と町民への影響について。

①、町の基幹産業である農林漁業の現状について伺います。

②、観光業を含めた商工業全般の状況について伺います。

③、道の駅の開設は地元経済の影響や町内の活性化に寄与すると捉えるが町の考えを伺います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 「産業振興」についてのご質問であります。

1項目めの「長引くコロナ禍とウクライナ情勢が町内の産業経済や町民生活に与える影響」についてであります。

1点目の「町の基幹産業である農林漁業の現状」についてであります。農業においては、コロナ禍の中にあるものの飼養頭数は微増しており、素牛や枝肉の価格はコロナ以前の水準まで回復しているところであります。しかしながら、肥料や飼料、燃料の高騰により経費が増加し、農家経営は厳しさを増しております。

林業においては、未だ木材価格の高騰が続いており、町内の人工林では高樹齢化が進んでいることから、適切な除間伐と造林による森林整備を進めていく考えであります。

水産業においては、昨年よりアキサケをはじめ資源が回復しつつありますが、燃料の高騰など経費の増大により、漁家経営は厳しいものとなっております。引き続き、関係機関と協議し経営の安定を図っていく考えであります。

2点目の「観光業を含めた商工業全般の状況」についてであります。長引くコロナ禍やウクライナ情勢等の影響により、各事業者の経営は大変厳しいものと捉えております。

このため、本町は事業の継続や拡大を目的に国の交付金を活用して給付金や補助金などの支援事業を展開してきたところであります。

このように大変厳しい状況の中ではありますが、飲食店や民泊などの新規開業があり、明るい兆しが見えてきたところであります。

観光業においては、今年度、全国旅行支援などの展開もあったことから、観光入込客数は増加しておりますが、今後もより多くのお客様が本町にお越しいただけるよう、引き続き誘客活動を進めてまいります。

商工業・観光業全般として、働き手の不足が生じてきておりますので、合同企業説明会等の施策により、働き手の確保に努めてまいります。

3点目の「道の駅の開設が地元経済や町内活性化に寄与することへの町の考え方」についてであります。全国各地にある道の駅の中でも、道路利用者の休憩施設だけではなく、産業振興、防災、観光などの拠点としての機能を有する施設が増えている中で、道の駅の開設は地元経済や町内の活性化に寄与するものと考えており、以前から必要性を感じているところであります。

今後も既存施設での道の駅化の実現性など、引き続き調査検討を進めてまいります。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。まず、基幹産業である1次産業についてであります。長引くコロナ禍においても非常に奮闘を続けてきた我がまちの1次産業でございます。新たにウクライナ問題が発生し、あらゆるものの品不足と物価高騰が降りかかりました。国、北海道やまちも業種ごとに様々な財政支援を実施してまいりましたけれども、この世情がいつまで続くのか全く先が読めない状況であります。

まず、そのことから畜産業についてであります。黒毛和牛の枝肉価格について、この数年間は非常に安定的に推移していたと私は情報をつかんではおりましたけれども、ここにきてどういう状況になっているのか、この状況をまずお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 枝肉の価格についてのご質問でございます。令和2年11月時点で東京の食肉市場のA5ランクのお肉1キロ当たりが2,767円、それから令和3年11月でいきますと2,740円、同じく本年11月でいきますと2,675円と多少のばらつきはありますけれども、ほぼ同様の価格になって、戻ってきているかなというような捉えでいるところでございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。若干ですけれども、下降ぎみだなと捉えました。生産者にとっては枝肉価格というのは非常に重要な部分を占めておりまして、価格的に波があるのです。ずっと推移を見ていると、少々の波があると。四、五年続いたのではないかと思っ
ているのですけれども、いい状況が。安定した状況が続いていた。ここにきて若干気になるところではあるのですけれども、何とか町内の生産業者だけで解決できるような問題ではありませんので、世の中の状況、ましてウクライナ情勢の状況などもありますから、非常にその辺りも気になるところではありますけれども、ぜひ頑張ってくださいと思います。町は、白老牛のブランド化、商標登録をしまして、力を注いでまいりました。ただ、全国的に見ると、松阪や神戸やいろいろブランド化されている牛肉が多数あるのです。そういった中で我がまちの白老牛、どのようにこれから、こういっためじろ押しにあるブランド牛に対抗するのではなくて、白老町は白老町のやり方があるのです。生産者も、これも限られております。白老牛の生産者というのは、経営者、経営も若手にうまく引き継がれたなど感じているのです。非常にその辺りは心配して、廃業などする農家がたくさん出てくるのではないかなと随分心配しておったのですけれども、非常にうまく後継者がしっかりと守ってくれているなど心強く思っているところなのですけれども、現状の今の農家の、畜産業の現状、そういった状況をどう捉えているかお聞きしたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ただいまの及川議員のお話の中で事業継承の部分の話もありました。確かにうまく引き継がれていっている部分はあるのかなとは思っていますが、今畜産農家含めて、ほかの野菜農家も含めてなのですが、非常に大きな現状の課題としての捉え方としましては、やはり今円安、それからウクライナ情勢も含めて肥料、それから飼料の単価の高騰によってある一定程度牛の価格というのは戻りつつありますけれども、そちらに係る経費が非常に増大しているということが一つ大きな課題であると捉えております。そういったことから、決して楽という言葉ではないですけれども、厳しい状況に今農家の経営はなっているのかなとまずは捉えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。今厳しい状況が予測されるのです。ウクライナ情勢、円安の状況も非常に厳しい状況もこれから予想されます。しっかりと外向けに当然やっていかなければいけないのだけれども、やっぱり地元の経営そのものをしっかりと固めていく、こういう力をぜひ町として支援していただきたいと思います。

ここはもうこの部分で終えたいと思いますけれども、毎年開かれていた白老牛肉まつりなのですけれども、令和元年の30回を重ねたこの牛肉まつりなのですけれども、その後コロナの関係で中止になっております。一昨年ですか、ドライブスルー式で実施はしておりますけれども、やっぱりドライブスルーというのはちょっといただけないかな。私は、牛肉まつりは外でたく

さんの皆さんと一緒に焼いて頂くと、こういうことがやっぱり大事なことだと思うのです。今全国の状況を見ている、こういう祭り形式も、確かにコロナは怖い部分もあるのですが、屋外でやるということであれば、ぜひこの31回大会に向けて町として努力していただきたいなど。生産者の方々のご意向もありますから、まちだけのことではないと思うのですが、開催に向けて、31回大会の牛肉まつりをぜひ開催していただきたい、この部分だけお聞きして、終えたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 牛肉まつりの件でございます。確かにもう3年実施していない状況で、一部ドライブスルー方式といいますか、そういった形で開催はさせていただきまされたけれども、やはり本当にきちんと足を運んでもらって、さらには牛肉まつりばかりではなくて、本町の魅力といいますか、本町いろいろ立ち寄っていただいて、周遊していただく、楽しんでいただくということも重要なと捉えておりますので、何とか次回は、次回といいますか、来年6月に向けて我々ばかりではなく、銘柄推進協議会、白老牛肉まつり実行委員会、それから各農家も含めて十分に話し合って、開催できるように努めていきたいと考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。次に、林業ですけれども、国の施策といいますか、国産、国内の林業というのは非常に縮小された、昔は営林署といまして、山に入って、枝払いから苗を育成しまして、山に植えると、こういう事業を白老町でも長い間やってきた経緯があるのです。そういったことも今はもう全然全くやられていない。山、ほとんど民間の事業者が木を切る、間伐にしても何にしても民間の皆さんに御苦労をおかけしている状況。だから行き渡っていないのです、手当が。森林に対する、山に対する手当が行き渡っていない。それは国の施策でもあるのですけれども、ロシアの原木が入らなくなった、そういった状況、様々な問題が今これから出されようとしていますけれども、林業に少し目を向ける、山に目を向ける施策をこれからぜひしていただきたい。これはまちだけのことではないのですけれども、国がやらなければいけないことですが、まちとして例えば国内産の材を使うとか、これからは公共施設の老朽化といういろんな問題がありますけれども、木というのは非常に日本の風土といえますか、これは伝統で、お寺から神社からいろんなそのものは長い間、何百年もしっかりと保たれているというような状況があります。ぜひそういった目でまちづくりを進めていただきたいなど。この1点だけお聞きしておきたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 今議員のお話の中にもありましたとおり、ロシア産の材の部分もあって、今ウッドショックと言われる中で、まだ値段も非常に高騰している状況にあります。そのことから含めて、一時期値段が低くて、北海道の材というのがなかなか使われていない現状ですが、今国内材含め北海道の材木、非常に注目を浴びているところでもございますので、そういうものをできるだけ活用いただけるような周知といいますか、そういった部分も町として何かできればなどは考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。次に、漁業に移ります。今朝の新聞だったのですけれども、今年のアキサケの漁獲量が過去最高になったと、なりそうだと。11月の時点での数字なのですけれども、単価も非常に堅調に推移していると、こういう報道がされました。昭和63年といいますから、34年前なのですけれども、このときが一番最高を記録したみたいなのです。豊漁という非常にうれしい状況でありますけれども、サケばかりではなくて、取れない魚というのは、従来取れていた魚が取れない、スケトウダラもみんなそうなのですけれども、そういう状況をぜひ期待したいものだなと。何とか従来の魚が取れる海にするような状況にぜひ期待をしたいと思うのですけれども、近年続いた不漁の状況ですけれども、今朝の新聞でもオホーツク、日本海側の、全然違うのです、漁獲量が。これは温暖化だけで済まされるような問題ではないみたいなのです。だから、その辺りの状況は、町だけの話ではないのですけれども、どう捉えておりますか。

○議長（松田謙吾君） 齋藤産業経済課参事。

○産業経済課参事（齋藤大輔君） アキサケの状況についてでございます。今議員のご指摘のとおり、漁獲量は、今年は非常によかったとなっております。特に日本海沿岸につきましては数年前から大きく増えている状況、それと北海道の全体の量の約半分はオホーツク海ということで、オホーツク海が伸びれば北海道の漁獲量は間違いなく増えていくといった状況でございます。一方、太平洋沿岸、白老町も含みますが、去年よりかは回復しております。倍ぐらいに増えています。ただ、この近年の状況を見ますと、やはりまだ少ないといった状況になっております。これは、恐らく去年は赤潮の影響もありましたが、海洋ルートの変更とか海水温の上昇などによってサケの通り道というか、そういうものが若干変化してきているのかなとは捉えております。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。そういう原因はなかなか、海のことですから、魚も動きますし、海流だとかいろんな問題もあるのでしょうけれども、本当に近年の魚が取れない状況というのは漁師にとっては非常に最悪の状況であります。ですから、町としてもそういった支援の部分をぜひ常に念頭に置いていただいて、しっかりと支えていただきたいと思います。

この部分については終えますけれども、今まで様々といいますか、議会の中でも非常に議論になっている白老漁港区の狭隘の問題です。ほかの農業だとか商業だとか、そういった業種と違って、一旦海に出ると命がけの状況なのです、漁師というのは。だから、そういう意味においては何としても港内で事故があったとか、そういうことが起きないように状況をぜひつくっていただきたい。真剣に国、北海道にしっかりと要望を粘り強くして、早期に解決するような状況をつくってやってほしいのです。この辺りの考え方をお聞きしたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 今議員から漁港区の整備の関係でご質問がありました。狭隘化もそ

うですし、それから岸壁の改修、これも要望としてあります。もう一つ、屋根付岸壁だとか、そういったこともありまして、この3つについてはいぶり中央漁業協同組合と協議した中で、この3点については取り組んでいきたいということで、お互いに共有した中で進めているということになります。今議員が言われたように、狭隘化についてはそのことによって何か事故が起きるとか、そういうことはあってはならないことなので、この3つは何とか、町だけでできませんので、国のほうにお願いをしていきたいと考えています。それで、今は一つの要望として苫小牧の総合期成会の中に要望として取り上げさせていただいています。それと併せて、事務方のほうでどう進めていったらいいのかということも国のほうと今協議していますので、いついつということ言えばいいのですけれども、それはまだ言えない状況なのですけれども、そういった取組を今後も続けていきたいと思っています。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。しっかりとこの部分については町として責任を持って解決するような対策を、難しい状況は十分理解はしておりますから、解決に向けて、実現に向けて取り組んでほしいと思います。

次に移りたいと思います。商工観光業についてであります。町長の答弁がありましたように、非常に厳しい状況、コロナの関係で厳しい、それからこれから様々な品不足、物価高騰、円安、これが非常に商工観光業にはついて回る厳しい状況だと思うのですけれども、ただいまの答弁でもしっかりと頑張っておられる姿は理解できました。ただ、令和4年も残すところあと2週間になりました。こういう状況の中で、各小売店を含めた状況をどのように、やめてしまうとか、そういうところはないですね。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ただいまの質問でございます。本年に入りまして、コロナ禍とか、燃料高騰を理由に廃業というお話は今現在聞いておりません。継承の問題とか自主的にやめられたというお話は聞いていますけれども、決して業績が悪くてとかコロナの影響とか、それから燃料が高騰して大変だということではなくというお話は伺っているところで、現在はないと聞いてございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。ウポポイが開設して約2年半になりました。町長は、常にウポポイと連携したまちづくりをして、まちを活性化させたいと、こうよくおっしゃっておられました。活性化につなげたかどうかは、今コロナの関係もありますから、厳しい状況ではあると思うのですけれども、どのように町長は捉えておられますか。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田彦彦君） 商工観光ということで、ウポポイと連携したまちづくりは常々口に出してお話をしております。コロナの影響で各事業所が大変厳しい状況なのは重々承知しております。ただ、ウポポイのおかげ、ウポポイ効果でほかのまちに比べるとまだ観光客が来てい

た分があるので、その辺はまちとしてはよかったなと捉えております。ただ、先ほど担当課長もお話ししたとおり、ウクライナの情勢とコロナ禍の中でいろんなものが、資材の高騰だったり、燃料の高騰だったりという要因もあるので、まだまだ油断はできないので、その辺はまちとしても支援をしていきたいと考えておりますし、観光の部分については登別市や洞爺湖町の協議会も一緒に今プロモーション活動や営業をかけておりますので、これもまたますます強化していきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。しっかりと、連携ではなくて、ウポポイがなくてもやらなければならないものはたくさんあるわけです。ただし、付加価値をつけて、ウポポイを利用してまちづくりを進める、こういう状況をぜひつくっていただきたいのと、あと虎杖浜から社台、各小売店がなくなって、生活する住民の皆さんも非常に苦勞されている部分があるのです。先般といいますか、以前も私はこの部分でお聞きしたことがあるのですけれども、まちの足となるとやっぱりきちんと……小売店がなくなるということは生活に非常に影響するわけです。この部分をしっかりと、まちが店をどうのこうのするという話ではないものですから、ぜひそういった足の確保を含めて取り組んでほしいと思います。小売業の皆さんも非常に苦勞されている部分があるのでしょうか、コンパクトなまちづくりという話がありますけれども、これから人口がどんどん減少していく中で、この部分はやむを得ない部分があるのですけれども、まちとしてしっかりと住民を守るような施策をぜひ打っていただきたいと思います。

次に、観光業に入ります。インバウンドを含めてコロナの影響をまともに受けておる観光業でありますけれども、国の施策によって、先ほど町長のご答弁にもありましたけれども、観光業自体は我がまちのウポポイを核としてしっかりと取り組んでおられるなどというのは、姿はよく見受けております。今町長のご答弁もありましたけれども、令和4年のまちの観光客の入り込み数はどのように捉えていますか。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 観光入り込み客数についてのご質問でございます。先日報道等でも発表させていただいたのですが、先ほど令和4年度の上期ということで観光の入り込み客数が確定しまして、上期の観光入り込み客数が129万7,113人ということで、これは平成20年ぶりの200万人が想定される数字になるのではないかとということで、数字としてはよかったなと、これはコロナが落ち着いてきたこと、それから全国旅行支援等も含めて、やはり人の動きが出てきたものではないのかなというような、大きな捉えではそういうような感じで捉えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。今の答弁にありましたように、まちを歩いていても地方の車のナンバーが見受けられます。これはウポポイの関わりだとは思いますが、ただまちにとっても非常にありがたい部分で、ぜひ今後この状況を……ただ受け入れる側とし

でもやっぱりしっかりとその部分の施策をしておかないと、ただ素通りしてしまう状況があるわけですから、その辺りも含めてぜひ様々な工夫をしていただきたい。後で提案させていただきませけれども、工夫をしていただきたいのです。ただバスを走らせればいいのではなくて、呼び込むことと、それから利用してもらおう施策、このことをぜひ取り組んでほしいのです。バスを走らせたからいいのではなくて、利用してくれるだろうというのではなくて、もうちょっと何か工夫してほしいというのが私の思いなのですけれども、その辺りのことを含めてどう捉えていますか。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 今回上期で先ほど言いました129万7,000人ということで、平成20年ぶりの200万人台を超えるのではないかと今担当課として押さえているというお話をさせていただきました。これはウポポイの効果も当然ありますし、竹浦、虎杖浜地区についても前年比112%の40万6,000人のお客様が見えているというところもございますので、大きくはやっぱりまちに広く効果が出てきているのかなとは捉えております。本町に来ていただいたお客様がウポポイのみならず、周遊していただいている部分も少し見えてきたかなというところで捉えておりますが、まさに議員おっしゃったとおり、呼び込む、それから利用していただく、こういった観点が非常に大切だなと思っております。今実際に我々がやらせていただいておりますウエルカム白老キャンペーンにつきましても、宿泊していただいて、割引して、さらにクーポン券を発行して、町内の各店舗で使っていただけるような取組もしておりますし、それから先ほど町長の答弁にもありましたけれども、白老町のみならず、白老町と登別市、もしくはこの近郊の団体に誘客活動も進めております。それから修学旅行の誘客活動も少しずつではありますが、進めてきている状況でございますので、そういった部分でこれからもっともっと来ていただく呼び込み、それから利用していただくということも積極的にやっていきたいと考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。分かりました。非常に喜ばしい状況であります。観光業にとってやっぱり客を呼ぶ、来てくれる、こういう状況、一番大きな部分です。それであるならば、やはりいろんな、先ほど来申し上げているように、しっかりとサービスをする、受け入れる体制、このことをしっかり念頭に置いて進めていただきたいなと思います。

JRは特急が止まるようになりました。この利用状況はどうなっていますか。まちづくり、これはウポポイの絡みでの特急電車なのですけれども、まちづくり全体としてどのように捉えているか伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 当初ウポポイができる前については、多くのお客様に特急をご利用いただいて、歩いていただくという想定をしておりました。ただ、やはりコロナになりまして、圧倒的に、コロナ感染防止の観点もあるとは思いますが、自家用車で来られるお客様が非常に増えているということで、コロナ前に我々が想定していたJR利用客が思ったほど

伸びていないのかなというところ、いわゆる自家用車で来られるお客様が多いのかなというような印象を持っているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。長年悲願だったのです。ずっと長い間活動して、特急を止めるのだという活動をしてきましたけれども、ようやく白老町に停車するというような状況をつくったのですけれども、課長の今の答弁だとマイカーの客が多くて、なかなかJRを利用されていないという状況であります。ここで利用してもらい、白老町に来てもらうという状況はなかなか難しいとは思うのですけれども、JRとタイアップして、何らかの来ていただける対策を打てないものかどうか、その辺りも考慮していただきたいと思うのですけれども、考えを伺います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） JRとは、常日頃協議させていただいている部分もでございます。例えば、JR北海道で企画している、駅に集合していただいて、そのまちを散策していただくJRヘルシーウォーキングという旅行パッケージがありまして、そういった活用をさせていただいているとか、今年でいいますと、これはJR北海道とJR東日本の部分になりますが、四季島という豪華列車が白老町の駅にも停車していただいて、大変好評いただいて、お客様をお迎えしたというような実績もありますし、また来年も検討していただいている状況がありますので、引き続き協議して、ぜひ白老町に寄っていただけるようにまた働きかけをしていきたいと思っております。いずれにしましても、JR側とも協議させていただきながら様々なことができないか、利用客を増やせないか、もしくは白老町に来ていただけないかということを含めて、これからもやっていきたいと考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。分かりました。しっかりとその部分も継続して取り組んでいただきたいなと思います。

次に、観光ガイド、ウポポイも含めてこれから観光業をまちづくりとして進めていく中で、この観光ガイドというのは非常に重要な取組だなと思います。実は平成27年ですから、もう七、八年になるのですけれども、議会の研修で長崎市に行つてまいりました。その中で、長崎さるくという市民ガイドが根づいておりまして、私たちはその観光ガイドを利用したのです。我々は一応勉強して行くのですけれども、分からない部分はいっぱいあるのです。その土地、土地でいろんな歴史があつたり、文化があつたり、いろいろあるのですけれども、非常に地元の人たちが、そういう知らないで行く人たちに丁寧に説明してくださる。歩きながらなのですけれども、非常にありがたかったなというような思いがあつて、これは白老町がウポポイを開設したときにぜひこの取組をしてほしいものだなと思つていたので、観光ガイドができて、今取り組んでいるという状況なのではございますけれども、この状況はどうなっていますか。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ガイドセンターのご質問でございます。昨年、令和3年4月14日に白老おもてなしガイドセンターが立ち上がりました。実際には今20名の方が登録されて、事業を実施されてございます。令和3年度におきましては、ガイドの実績としまして214名の方にガイドをさせていただいております。また、令和4年度に入りまして、9月までの実績でございますが、270名の方にガイドをさせていただいております。中身としましては、ポロトの自然休養林とかウヨロ川のサケの遡上、それから萩の里の散策、虎杖浜エリアの散策、ウポポイの水先案内といたしますか、そういった形でやらせていただいておりますし、また札幌からもお客様、バスツアー等でガイドの実施なんかもやらせていただいて、今大変好評いただいているということで、旅行会社も含めて問合せがたくさん来ているというような状況でございますので、これからも引き続き町としても応援できる部分があれば何かできないかなということも含めて協議させてもらって、白老町に観光で見えられるお客様がより多くの魅力を知っていただくような取組なんかもできればいいのかなと思っておりますので、これからも引き続きガイドセンターとも協力しながらやっていきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。状況は分かりました。ぜひこの取組を広げていただいて、まちの観光づくりの、しっかりとお客様をお迎えする状況を整えてほしいなと思います。これは観光ガイドになっていますけれども、名称は何もないですか。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） すみません。私の言い方が非常によろしくなかったのかなと思いますけれども、白老おもてなしガイドセンターという団体名になっております。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。先ほど聞き逃した部分がありました。そうですか。長い名前ですけれども、もうちょっと何か親しみのある名前をつけて、これは長崎さるくというのだけれども、意味合いが分からないのですけれども、そういった親しみやすいネーミングをしていただければいいかなと思います。

次に移ります。道の駅であります。町長から常に前向きな答弁をいただきます。同僚議員の皆さんもやはりぜひ道の駅をとという思いを議会の中で要望しておられます。その都度なかなかやりそうだなという期待感を持っているのですけれども、全く動きが見えてこないというのが現実であります。その辺り難しい部分があるのかどうか。財政面も当然問題がありますから、難しい面はあるのですけれども、実現に向けて動きが取れないのはどういう理由でしょうか。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 道の駅の質問でございます。道の駅には機能として大きく休憩機能、それから情報発信機能、地域連携機能、プラス今防災の拠点機能ということも含められて言われているところでございます。当然こちらをやっていくには施設の、具体的には施設整備も当然必要になってまいります。それから、それにはやはり細かいことでいいますと実は

たくさんありまして、具体的には駐車場の台数がもう少し、定義的には駐車場の台数として最低20台以上、それから駐車場に障がい者、妊婦向きの屋根つきの優先駐車場スペースの確保、それから水洗便所で駐車場規模に応じて利用状況に応じた便器数ですとか、原則これは洋式の便座で、温水洗浄ができるものが推奨されているとか、それから駐車場とトイレを結ぶ歩行経路についてはバリアフリー化、それから道の駅の中においてもバリアフリー化に努めることというような条件、それから案内所につきましてサービス施設は駐車場から歩いて二、三分以内に立地していなければならないとか、それから大きくはベビーコーナーの設置、それから先ほども言いました妊婦向けの屋根つきの優先駐車場のスペースの確保、それから子供用トイレとかという、そういう機能を改善しなければならないということで、これらを行うということになると、当然費用が大きくなってくるのかなというところでございます。そういった中において、当然費用の部分もでございますけれども、仮にですけれども、白老町の駅北インフォメーションのところをやろうとした場合には、あの部分は道道に面しているから可能ではあるのですが、ただ、今駐車場のスペースの部分の部分が道の公園、駐車場公園という位置づけになっていますので、そちらの北海道との協議も必要になってくるということもございますので、そういった部分。それはそこでやるとした場合のお話ですけれども、そういった部分等もいろいろありますので、まずはお金がどうのこうのというのはあまり言いたくないのですが、正直に申し上げますと、様々な機能を有していなければならないということがございますので、そういったものを少しずつやっていかなければ一度にはできないのかなと捉えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。そういうことを考えると、まず不可能だなという思いがするのですけれども、そういうことではなくて、将来のまちづくりにはまちの活性化を含めて、これから人口減少がどんどん進んでいく中で、やっぱり人を呼び込む策というのは重要な施策の一つだと思うのです。そういう意味において、諦めるのではなくて、何らかの糸口というか、ぜひつくってほしいのです。例えば今答弁にあったようなインフォメーションを柱として考えるのであれば、やっぱり1つずつクリアしていくような対策を打ってほしいのです。まちづくりに、活性化に必要だと町長は再三答弁されています。そうであるならば、実現させる何らかの状況をつくって、きっかけをつくってほしいのです。ただ投げていくのではなくて、協議して、これは難しいとなってしまうえば、まずこれは駄目です。実現はまずあり得ません。そういう意味においては、ぜひしっかりときっかけをつくっていただきたいと思います。

議長、2つ目に入ります。2項目め、最後の質問になります。

2、地域公共交通について。

(1)、東西に形成される本町特有の地域公共交通の在り方と、将来を見据えた取組について。

①、町民の足となる地域循環バス「元気号」の利用者等の現状及び将来像について伺います。

②、デマンドバス「カムイ号」及び交流促進バス「ぐるぽん」の運行状況について伺います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 「地域公共交通」についてのご質問であります。

1 項目めの「東西に形成される本町特有の地域公共交通の在り方と、将来を見据えた取組」についてであります。

1 点目の「地域循環バス『元気号』の利用者等の現状及び将来像」についてと2点目の「デマンドバス『カムイ号』及び交流促進バス『ぐるぼん』の運行状況」については関連がありますので一括してお答えいたします。

「元気号」については、昨年10月のダイヤ改正時に一台を減便し、その利用者については、「カムイ号」の運行範囲を拡大することにより対応していることから、「元気号」の利用者としては減少しています。

一方、「カムイ号」は、主に宇地域の鉄北地区を運行範囲とし、特に高齢者の移動手段として需要が高まっており、昨年4月には各地区6往復に増便して運行しています。

また、「ぐるぼん」については、ウポポイ開業を契機にインバウンドなど公共交通利用者の二次交通として、市街地循環便と広域ピストン便の2路線を運行しています。

今後においても、これら3種類の公共交通について、町民ニーズの把握や利便性向上を図り、町内の移動手段の確保、充実に努めてまいります。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。元気号です。長い間しっかりと継続して、いろんな町民からの苦情があって、大変な時代もありました。その分しっかりと元気号については継続して事業を行っていただいていることに対しては、非常に敬意を表したいと思います。利用者の減少は、デマンドとの絡みでこれはやむを得ない状況であると思います。また、この状況が、ぜひ元気号とデマンドをうまく組み合わせて、しっかりと町民の足としての役割を果たせるような状況をつくってほしいなと思うのと、今後確かに少子高齢化で人口も減少するでしょう。利用者も減っていくでしょう。そういう中で、戦後生まれのいわゆる団塊世代というか、この状況が実は三、四年後に来るのです。そういった中で、高齢の皆さんが免許証の返納とか、そういった状況、今、日本ではいろんな高齢者の交通事故が数多く頻繁に起きている状況にあります。そういったことからすると、国もそういった対策を打ってくると思うのですが、そういう免許を返納された方々をやっぱり足として救う、日常生活を支えていく状況をぜひまちとして今の状況を継続してほしいのです。そういうことからすると、そういった免許返納というのは急激に増えるということはないと思うのですが、やっぱりその辺りのことも頭に入れてまちづくりを進めてほしいと思うのですが、その辺りの考えを伺います。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） 元気号については、福祉バスの関係で平成6年から動き出して、その後町民に開放して、平成14年からというような変遷がございます。議員がおっしゃるように、人口減少を含め昭和22年から24年生まれのいわゆる団塊の世代というのが今年の3月末時点で約2,000人弱、3世代でいらっしゃるということで、町の人口が1万6,000人を切っている中であっては、その3世代だけで7.3%程度、その前の70歳から74歳まで……申し訳ござい

ません。昭和22年から24年ですと1,200人弱で、その前の昭和22年から26年、そういった前期高齢者5か年の部分で2,000人弱というような数字があります。この世代の方で人口に対しても12%ぐらいになっておりますので、やはり今後町の中での高齢者の方の移動手段、そういったものを確保するというためにはしっかりと循環バスの元気号とデマンドバスのカムイ号というものを相互補完しながら皆さんにご利用いただく環境をつくっていくことが大事だろうと思っています。今年から高齢者の免許返納のインセンティブとして回数券をお配りするような取組もスタートしておりますけれども、11月末まででおおむね60人弱の方がご利用いただいているというようなことで、一定の需要はそこにもあるのだろうというように思っておりますので、あとは我々、やはりバスの問題ではダイヤの問題、あるいは停留所の問題、そういった乗り継ぎの問題も含めて、そういった利用を促す、理解を深めるということもしっかりしながら、総合的に公共交通を運行してまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。状況は分かりました。しっかりとこれからもこの2つの公共バスをうまく活用して、町民の足となるような取組を今後も続けてほしいと思います。

次に、ぐるぼんです。ぐるぼんは全く客が乗っていないよみたいな話をよく耳にするのですが、これは先ほども若干触れさせていただきましたけれども、観光ガイドと何かタイアップして来町された観光客の皆さんの対応、ぐるぼんを利用して説明する、そういったことはできないものなのか。その辺りが私は……ただ走らせているのではないというのは十分分かっているのです。その辺りのことを何かうまく利用できないものなのか。私はもうちょっと何か工夫できないものかと思っておりますけれども、その辺りのことを伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ただいまのご質問でございます。ぐるぼんについては今年の5月に次の停留所の案内音声ガイドを入れさせていただきました。ただ、今議員のご指摘がありましたとおり、例えば機械でちょっとした観光案内といいますか、お知らせといいますか、そういったものとか、それから今ご提案と思っておりますけれども、例えばガイドセンターの人が乗って、こういう観光地がありますよというようなお勧めではないですけれども、ご案内というか、そういった形のものではないのかなということも含めて、それからこれからインバウンド、外国からのお客様も多く来られますので、多言語対応も含めて、何かできないかなということも含めて、今実は検討させていただいている最中でございます。ですので、来年すぐできるかどうかということは別としまして、そういう取組は必要だという認識はございますので、これからも利用増につながるような取組になればなと考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 11番、及川保議員。

〔11番 及川 保君登壇〕

○11番（及川 保君） 11番、及川です。おおよそのことは分かりました。ただ、先ほど再三繰り返しているように、やっぱりきちんと工夫して迎え入れる対策を打ってほしい。喜ばれる対策をぜひ進めてほしいと思います。

これで最後にしたいと思います。町長に伺って、私の一般質問を終えたいと思いますけれども、あと一月で町長は退任されます。我が町の大変厳しい財政再建の真ただ中で信任されて、今日まで11年にわたって町政を担われました。このことに対して敬意を表したいと思います。本当に御苦労さまでした。今回の私の一般質問、2件ありますけれども、このことも含めてぜひ戸田町長に今後の将来のまちづくりを含めてご示唆をいただければありがたいと思います。

私の一般質問を終えたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 11年間大変な中ではありましたが、及川議員をはじめ議員の皆様様の協力もあって、まずこの場を迎えていることに感謝を申し上げたいと思います。今回の質問で産業振興と地域公共交通ということで、まちの将来も含めてお話をさせていただきたいと思います。

産業構造については、1次から3次まで白老町はたくさんの産業がありますので、課題もそれなりにあると思います。ただ、逆に考えると、それだけポテンシャルもあるということなので、可能性がすごく広がっていますので、これからも、ちょっと大きな話になりますけれども、強みを生かしていけばもっともっと活性化につながると考えておりますので、期待をしたいと思っておりますし、私もここから出ていくわけではないので、一町民として協力できるところはしていきたいと考えております。

公共交通については、私が就任した当時は福祉バスの元気号が走っていきまして、先ほどのダイヤの改正とか停留所の問題、乗っている方が1時間以上も乗っていて、いいところにきちんと乗り継ぎをしてくれとか、いろんな話がございました。ただ、大きく走らせるバスには限界があって、議会でもいろんな議論をさせていただいた中で今デマンドバスを活用して、デマンドバスのほうがやっぱり利便性がいいということで、今デマンドバスをどんどん拡充しているような、改正をしているような状況でございます。また、その中でも、まちの中にぐるぼんも走らせ、確かに今まだインバウンドが来ておりませんので、なかなか乗車率が上がらないところではありますが、インバウンドが戻ってきたらぐるぼんも工夫をしながらまた活性化につなげていければいいなと思っております。地域公共交通については、デマンドバスを中心にこれからは人の、高齢者の足となって進めていくように私も願っているところがございますので、ますます充実を図りながら高齢者の足の担い手の確保のきちんとした状況を踏まえて進んでいければいいなと思っております。

○議長（松田謙吾君） 以上をもって11番、会派みらい、及川保議員の一般質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時02分

再開 午前11時19分

○議長（松田謙吾君） 休憩を閉じ一般質問を続行いたします。

◇ 小 西 秀 延 君

○議長（松田謙吾君） 10番、会派いぶき、小西秀延議員、登壇を願います。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 10番、会派いぶき、小西秀延でございます。本日は、町政全般について質問させていただきたいと思っております。戸田町長が来月中旬には辞職されるということで、これまでの11年間の町政全般の総括について質問をさせていただきたいと思っております。

1、町政全般について。

（1）、町長就任以来の行財政健全化の取組の総括について伺います。

（2）、ウポポイ誘致から開業における取組の総括について伺います。

（3）、新型コロナウイルス感染症拡大により町内経済が低迷し、イベントの開催などでも感染予防を踏まえた新しい生活様式となってきたが、これまでの取組の総括について伺います。

（4）、町長は就任以来、「教育のまち」を標榜してきたが、その取組の総括について伺います。

（5）、人口減少及び少子高齢化、ライフスタイルの変化や価値観の多様化など時代の大きな転換期の中、これまでの行政運営の総括について伺います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 「町政全般」についてのご質問であります。

1項目めの「行財政健全化の取組の総括」についてであります。

私が町長に就任した当時は、「新財政改革プログラム第1次改訂版」に基づき財政健全化に取り組んでおりましたが、年2億円にのぼる第三セクター等改革推進債償還費等の歳出増加や、町税、普通交付税の歳入欠陥が生じるなど、収支均衡が保たれない状況となっていたことから、身の丈に合った財政運営を基本とする「財政健全化プラン」を平成26年3月に策定し、令和2年度まで財政健全化に向けた取り組みをこれまで以上に徹底してまいりました。

その結果、全道ワースト2位の21.6%であった実質公債費比率は13.3%まで、全道ワースト3位の219.0%であった将来負担比率は、全道平均を下回る31.7%まで、それぞれ改善したほか、町債残高は274億3,200万円から160億4,700万円まで減少、財政調整基金残高は2億1,500万円から11億600万円まで増加するなど、健全化プランの着実な実行により、他会計からの資金借入などの緊急的な対策を講じなければ予算編成もままならないような、危機的な財政状況からは脱することができたものと捉えております。

また、3年度からは、これまでの行政改革と財政改革の基本姿勢を継続した「行財政改革推進計画」を策定し、本町と取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するとともに、町民生活の充実や町民ニーズの多様化への対応と、将来にわたる安定的かつ継続的な行政サービスの実現に向けた財政基盤の構築との両立に取り組んでいるものであります。

2項目めの「ウポポイ誘致から開業における取組の総括」についてであります。

民族共生象徴空間ウポポイは、その周辺整備を含めて、私自身、全身全霊をかけて取り組みを進めてきたところであり、令和2年7月12日の開業に際しては、安どとともに大変感慨深く感

じたところであります。

この間、社台地区の国道4車線化やJR白老駅前広場の整備、自由通路や観光インフォメーションセンターの建設を行うとともに、民間のホテル誘致も実現するなど、ウポポイを契機に、本町の未来に向けた確かな基盤整備を行ったところでありますが、この背景にある国や北海道、各関係機関が一体となった取組み自体も一つの大きな成果であったと感じております。

今後、ウポポイは、アイヌ民族のナショナルセンターとして、その使命を果たしていくこととなりますが、本町としても、ウポポイとの連携や共生により、将来にわたってまちの発展に向けた取組みを進めていくことが重要であると考えております。

3項目めの「新型コロナウイルス感染症拡大により町内経済が低迷し、イベントの開催などでも感染予防を踏まえた新しい生活様式となってきたが、これまでの取組の総括」についてであります。

令和元年12月に端を発した新型コロナウイルス感染症の拡大は、本町においても町民の生活や地域経済に依然として多大な影響を及ぼしており、未だ収束の目途が立たない状況であります。

そのような状況の中、町民の皆様の安全安心や低迷する地域経済の立て直しを図るため、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を主な財源に、対策のための各種事業に取り組んでまいりました。

これまでに、各公共施設や子育て支援施設・医療施設等における感染対策などの感染拡大防止事業を46事業、2億7,898万2,000円、オンラインによる各種相談体制の整備及び高齢者やひとり親世帯を対象とした生活支援などの住民生活支援事業を20事業、2億4,339万4,000円、事業者向け各種経営支援やプレミアム商品券の発行、観光誘致促進などの地域経済支援事業を49事業、5億6,585万7,000円、小中学校におけるオンライン教育環境整備や学習用タブレット導入などの教育活動支援事業を14事業、1億4,005万3,000円、令和2年度からの累計で、129事業、12億2,828万6,000円の事業を展開してきました。

事業の選択、実行に際しては、町民の皆様の目線に立つことを第一に、時機を逸することなく、最大限の費用対効果となる事業に取り組んでまいりました。

4項目めの「『教育のまち』の取組の総括」についてであります。

これまで、本町においては、「ともに学びあい ころほびかせ 笑顔かがやく 教育の町しらおい」を教育推進の基本理念に掲げ、子供たちのよさや可能性を引き出し、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を育ててまいりました。

特に、家庭や地域との連携・協働を通して、確かな学力・豊かな人間性・健やかな体の育成、ふるさと教育の充実、地域とともに育つ学校づくりなど、子供を主語にした教育活動を展開してきたことが、大きな成果であると捉えております。

5項目めの「人口減少及び少子高齢化、ライフスタイルの変化や価値観の多様化など時代の大きな転換期の中、これまでの行政運営の総括」についてであります。

私が町長に就任した平成23年は、まちの財政がひっ迫し、財政再建に向け、まさに「待ったなし」の状況からの船出でありました。その中、町民の皆様や町議会議員の皆様のご理解を賜

りながら、財政健全化を着実に推進し、将来のまちづくりの基盤固めに道筋を付けることができました。

並行して、人口減少及び少子高齢化が進む中、町内の子供達の明るい未来を見据え、「教育のまちしらおい」の実現に向け、教育を通しての人づくりに注力してきたほか、ウポポイ整備に対応した来訪者おもてなし環境の整備など、「ウポポイを核とした新たなまちづくり」に取り組んできたとともに、町民の皆様との約束である公約の実現に向け、11年間、全身全霊で取り組んでまいりました。

振り返りますと、初めて町政の舵取りを担わせていただきました23年の就任当時、行政については素人であった私が、当時から変わらぬ思いである「生まれ育ったふるさとが、町民の笑顔が見えるまちであり続けて欲しい」、その実現のために、役場組織としての「行政価値の再考」を職員に問いかけ、また、自問自答しながら、町政運営に臨んできた結果、微力ながらも「町民の笑顔が見えるまち」の実現に貢献できたものと認識しております。

任期を残した中での退任となりますが、ふるさと白老が今後も「町民の笑顔が見えるまち」であり続ける町政運営がなされるよう願うところであります。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 10番、小西です。ただいまいただきました町長の答弁で、またここから議論を進めてまいりたいと思いますが、私も順番が最後ということで、同僚議員がこれまでいろんな場面で質問されて、重なる質問もあろうかなと思います。ちょっと視点を変えて、また質問をかぶらないようにしていきたいと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

ただいまありがとうございましたご答弁で、様々行財政の健全化の数値が述べられました。その中でちょっと注目していきたいと思うのが地方債残高についてであります。平成23年と令和3年の比較がございました。数字の発表がありました、差異はどれぐらい、実質どれぐらい減少したのか伺います。そして、財政調整基金についても平成23年と令和3年の数字の発表がありました。この差異も明確にしたいと思いますので、そちらの数字を再度お願いしたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 大塩企画財政課長。

○企画財政課長（大塩英男君） 財政健全化の数値のご質問でございますので、私から答弁させていただきます。

町長の答弁の中では、財政健全化プラン期間ということで令和2年度の数値を答弁させていただきましたが、直近のということで令和3年度の数値で比較させていただきたいと思います。地方債の残高につきましては平成23年、これは一般会計、特別会計、企業会計を合わせたの数字ですが、274億円と。そして、これが令和3年度になりますと151億円ということで、差引きしますと123億円の減少になってございます。一方、財政調整基金につきましては、平成23年、約2億円という数字だったのですけれども、こちら令和3年度の財政調整基金の残高が約12億円ということで、10億円の増加というような状況になっているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 町長就任時からのということで、数字の変更を出していただきましたが、地方債残高が123億円の減少、そして財政調整基金が2億円から12億円、10億円の増加ということで、ご答弁いただいたそれぞれの数値は大きく改善され、町財政が健全化された目に見える多大な功績と評価できるものと私は確信をしております。この結果に至るには、町長をはじめ町職員が一丸となり、無駄を排除し、必要最小限の経費で大きな結果を残す政策的努力があったからこそと思います。町長が就任された平成23年の白老町は、大変厳しい財政危機の真ただ中にありました。支出予算のほとんどが経常費、中でも公債費の割合が非常に高かったと記憶しております。平成23年の公債費の額と令和4年の公債費の額、これは予算ベースでどのような数字になっているかを伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 大塩企画財政課長。

○企画財政課長（大塩英男君） 平成23年と令和4年の公債費の額というご質問でございます。一般会計の公債費として答えさせていただきますが、平成23年が約20億3,400万円、令和4年は、小西議員がご指摘のとおり、予算額で答えさせていただきますが、約11億7,100万円になってございます。この公債費、歳出全体に、合計に占める割合ということで答えさせていただきますと、平成23年は歳出全体の合計の割合といたしましては20.3%、ちなみに本年の予算額でいきますと歳出合計に占める割合が約11%というような数値になっているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

[10番 小西秀延君登壇]

○10番（小西秀延君） ただいまご答弁いただいた数値によりますと、約半減しているというような数値に受け取れるかと思えます。経常費が削減されるということは、予算自体が弾力性を増し、新たな事業や時勢に即した事業に着手しやすくなってきたと考えられると思えます。その点は、どのように捉えているかお伺いしたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 大塩企画財政課長。

○企画財政課長（大塩英男君） 経常費、特に公債費ということで、削減されるといろいろな事業に着手できるのではなかろうかというご質問かと思えます。先ほど私は公債費の歳出全体に占める割合ということでお話をさせていただきましたが、あまりいい例ではないかもしれないのですけれども、これを家計に例えるとしますと、10万円の収入があったよというときに、これまではいわゆるローンの返済がその10万円の中の2万円でした。片や今の予算額でいきますと1万1,000円になったとするならば、これは9,000円の余裕ができたと言ったら言い方がおかしいのですけれども、これまで固まっていたローンが2万円から1万1,000円になったということは、ある面この9,000円を使えるようになったということであれば、やはりこれは財政の弾力性というようなことであれば、これは小西議員のご指摘のとおり、間違いのないところかなと考えるところでございます。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

[10番 小西秀延君登壇]

○10番（小西秀延君） この11年間で財政の弾力性というのが急速に変化したのを見てとれるかなと思えます。近年も新しい事業、新規事業が上がってくることで多くなりました。財政が

健全化していけば、そのとき対応できる事業も増えますし、町民が望む事業も増えてきたのだなと実感できる予算組みができてきたかなと私は確信をしているところであります。

今支出の面で質問をさせていただきましたが、少し歳入予算にも触れたいと思います。歳入予算ではふるさと納税が大きな伸びを見せております。財政的に歳入を増やすということは、大変に難しいことだと認識しております。私は、ここは素直に、白老町は頑張っているなど思っております。この現状をどのように捉えていて、予算組みにどのように反映されているか、その辺を詳しくお聞かせ願えればと思います。

○議長（松田謙吾君） 大塩企画財政課長。

○企画財政課長（大塩英男君） ふるさと納税の財政に与えた影響というご質問かと思えます。本町におけるふるさと納税は、平成20年9月から寄付要綱を制定いたしまして、寄付の受付を開始いたしました。当初は100万円前後の寄付額となっていたのですが、これが平成26年度から特産品PR事業ということで、いわゆる返礼品付きのふるさと納税制度を開始したところ、令和3年度までには約30億2,000万円のご寄付をいただいたところでございます。これは、寄付をいただいた方の思いによって事業化しているということで、例えば4年度の予算でいきますと32事業、約1億円の事業化をしているということと、あと1年当たりにつきましては約1億円から1億5,000万円ぐらいの一般財源化をさせていただいているところでございますので、やはりこのふるさと納税でいただいた寄付というものは、財政に与えた影響は非常に大きいと捉えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

[10番 小西秀延君登壇]

○10番（小西秀延君） ふるさと納税が財政に与える影響というのは年にしても1億円から1.5億円ということで、大変大きな収入になっているなというのがよく分かりました。

そこで、財政が健全化されてきた中で大変厳しい状況で進めてきたというのも、これも事実かなと思っております。行政が町民要望に対し多くを実現していくということは、理想な形であろうと私も思います。しかし、そこに子供たちの未来を考える視点を欠いたとすれば、大きな失政につながると私は考えています。それが財政危機であると思えます。現代のニーズは多様化しています。その中での財政運営を考えると、身の丈を超える支出はできません。そのときに必要なのは、選択をする決断力です。できないことをできないと言える姿勢を保ったことがこの結果に結びついたのでないかと思えます。できれば人は、特に政治家はよい返事をしたいものだと思います。これはできるよ、これは頑張って何とかするよ、その姿勢が町民に伝われば政治家の評価につながる一番近い道だと思います。しかし、全てそうしてしまっただけではまた財政を悪化し、子供たちの未来は暗いものになってしまうと思えます。選択をする決断力、断る勇気がこの結果につながった一因ではないかと私は考えますが、この質問の最後に町長のお考えを伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 就任当時財政が大変だという話は、この12月議会でもいろんな議員、お話をさせていただきました。今小西議員がおっしゃった選択をする決断というのは本当に大

事であって、議員の皆様と職員の皆様も、選択したものに優先順位をつけて予算を上げているものですから、そこにご協力をいただいて、今があると思っております。一番は、やはりなった当時に新財政改革プログラムがあって、でもそのままのプログラムではまならないということで、財政健全化プランを策定しました。この財政健全化プランを財政規律の中で予算組みも含めてそこから絶対脱しないという強い思いが今につながったと思っておりますので、大変苦しいときもあったのですが、そのルールをきちんと守らせていただいたというのが今の財政再建につながったと思っております。これからのまちづくりの土台である財政も決して裕福ではないと思っておりますので、この辺はしっかりと議員の皆様と議論をしながら進めていただければなと思っております。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） ここまで財政再建で普通のまちと呼べる段階に入ってきたということですが、そうはいつつもまだまだ白老町は道内の中で見ても平均値が低くなる基金の状態でもあります。そういう状態を身の丈に合った運営でこれからもぜひつないでいってほしいなと感じております。

それでは、次の質問に移りたいと思います。ウポポイの誘致の件からの質問に移りたいと思います。さきの答弁にありましてとおり、ウポポイはアイヌ民族のナショナルセンターとして国内外にアイヌ文化のすばらしさを発信する拠点であり、東京以北で初の国立博物館を誘致し、開業を迎えられたことは当町にとって千載一遇のチャンスとなっております。町も様々な基盤整備に全力を挙げて取り組み、今日を迎えたことは大きな評価となっております。そこで、開業以来関連事業を多数開催し、ウポポイと共生する姿勢を鮮明に打ち出してきましたが、町内外からの反応、特に町に対するイメージアップの効果をどのように捉えているのか伺います。また、町民の生活面、利便性の向上や経済波及効果をどう捉えているのか伺います。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） 私からは、イメージ向上とか利便性向上の関係を答弁させていただきます。

やはりウポポイが東北以北といいますか、初の国立博物館を有するというところで、かつ国立ということですから、全国区のテレビCM、そういったことでもウポポイというのは全国に知れ渡っていると。その中で白老町ということが全国津々浦々に届いているという状況を考えますと、まずは本町の知名度という意味では、非常に大きな効果があると思います。それから、この後多文化共生というようなまちづくりを掲げている中であって、みんなが同じような中で共生していくと、そういった部分に果たす役割というのもまちづくりにおいても非常に大きなものがあるのかなと思っております。また、ウポポイの開業に併せて創業支援とか、そういったことも含めて新規開業というのはございましたが、やはり大手のリゾート会社がホテルで進出していただいたというようなことも含めて、イメージ向上というのはあるのかなと思っております。

それから、先ほどの及川議員のほうでもありましたおもてなしガイドセンター、こういった町民の自主的な活動、こういったことにつながったということも非常に大きいと思っております。

また、利便性の関係でございませうけれども、1 答目、答弁と重複しますけれども、長年の夢、要望でありました国道の4車線化、これはまさにウポポイがあって、この短時間というのでしょうか、整備していただいたということでございます。また、高齢化、こういったことを考えますと、駅の自由通路にエレベーターが整備されたということも非常に大きいかかと。また、特急の停車、本当にこれは平成の16年、17年ぐらいから特急を止める運動ということで署名活動しながらJRにも要望してきたところでございますけれども、ウポポイの開業に併せて上下35本、開業時間中の最大ということになりますけれども、そういった中で札幌市近郊といえますか、そういったところもより近くなったと。あるいは、逆に受入れ環境も非常に整ってきたということもあります。こういった中では、我々の地域公共交通の関係も含めて多様な移動手段、そういったものも整備されて、これ以外にもいろいろな部分でのイメージ向上、利便性向上というのはありますが、ちょっと数えるだけでこれぐらいのものはあるのではないかと。非常に大きな効果があったと考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） ただいまご答弁いただきました、町の知名度、国もこのウポポイを宣伝するに当たり、テレビでのコマーシャルなどもばんばんやっただいております。白老町にあるウポポイということでCMをしていただいておりますので、知名度もすごく上がったのかなと理解しております。また、今答弁にあったとおり、大手ホテルの誘致、これはやっぱりウポポイがあるからこそつながってきたのかなと。そして、国道の4車線化、自由通路、特急等、様々な経済に対する影響があったなと今の答弁で深く理解ができました。

それで、現在もコロナ禍にあり、他町では観光入り込み客が下がっている中、当町はちょっと伸ばしているという実績もあります。現在もコロナ禍であることには変わりなく、国民や海外の人々の旅行に対する意識はコロナ以前の状況にはまだ回復していないと考えています。しかし、ここで手を緩めることなく、ウポポイを町のレガシーとすべく国、北海道、民間も含め連携し、今はまだコロナの関係で行きにくい部分も見えますが、外国にもさらにPRの輪を広げて、コロナ禍以前に戻る反動需要を獲得する好機と捉えて、政策展開すべきと考えていますが、その見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） 及川議員への答弁の中で、工藤課長から上半期129万人というような入り込みのお話もさせていただきました。私が経済の担当をしているときにちょうどコロナが始まったという状況であったのですが、ウポポイの開業を迎えた令和2年、そのときに白老町だけは対前年比プラスに働いて、他のまちは非常に影響を受けたというような状況でございませうので、そういった中でも経済に果たす効果、そういった部分では非常にウポポイが効果的だったのは間違いないのかなとっております。そういった中でこの後どのような展開というのは、様々なことをやはりウポポイに絡めてということで考えていくことが必要だろうとっております。我々も今年度も道外プロモーションも行かせていただいて、道外からの皆さんにも来ていただきたいという中で、首都圏含め3か所でやってまいりました。そういった中

でも先月行ってきたよだとか、既にもう来ていただいた方も多く見られました。または、道外のプロモーション行きますと、やはり千歳空港と札幌市からの距離、そういったものを地図で図示しながら説明するという機会が非常に多かったのですけれども、そういった中でも千歳市から40分くらい、札幌市は特急が非常に多く止まるので、1時間で来られます。道外の方にもそういった機会を得ながらPRをしてきたということになってございます。また、外国の部分については、現在の状況でどこまでどうできるかというのがありますけれども、ただし先住民族、あるいは原住民、8月5日に台湾の秀林郷とも友好協定ということで行っておりますので、そういったこと、そういった関わりを少しでも具現化できるような取組については、今後とも検討してまいりたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 道外プロモーションの内容もお聞かせいただきました。また、台湾とも友好関係を築いているということで、海外のほうを進めているというところまではよく分かりました。まだ中国も感染が今広がりつつあるということで、まだまだコロナ禍というのは世界的に見ても収まらないのが考えられますが、そのときこそ、行けるようになったときこそまたチャンスでもありますので、今から準備を整え、国や北海道と連携して、世界的視野を検討して行ってほしいと考えております。

ウポポイの最後の質問になりますが、国立博物館を誘致するに当たり、九州の太宰府市、九州国立博物館では数十年の歳月を注いだそうです。当町も国、政府関係者、北海道議会議員、関係機関、また民間企業の皆さん、多くの方々のお力添えをいただけてきたものと思いますが、その陳情活動を行ってきた過程が非常に重要だと考えております。私も幾つか同行させていただいたところもありますが、比較的短期間に誘致に至るまでには大変な御苦勞もあったと推察されます。今日に至るまでの誘致活動の総括として、町長より見解をいただきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田彦彦君） ウポポイの誘致活動であります。東京以北、北海道では初めての国立博物館を白老町に設置するというので、本当に白老町にとっては大きな大きな事業でありましたので、私も含めていろんな方に陳情、要望、国も北海道も関係機関も併せて足を運びました。今思い返せば、一番多いときには6週連続東京に行ったこともあります。その一つ一つが積み重なって開設を迎えたのだと改めて思うところでありまして、ここに国会議員の先生方、北海道アイヌ協会、白老アイヌ協会の方、本当に多くの関係者の努力と協力があって、白老町に誘致できました。ただ、開設はまだスタートでございますので、これからきちんと連携を取って、まちづくりにつなげていかなければならないのと、日本の先住民族であるアイヌ民族のナショナルセンターの位置づけでありますので、これからコロナが収まっていくにつれて世界中の先住民族が日本に来たらここに寄るといような施設になりますので、目標の年間の入り込み客数は100万人でございます。100万人を達成するにはインバウンドは絶対欠かせないことだと思いますので、この辺も環境整備も含めて白老町として国とウポポイと連携しながら進ん

でいければと思います。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） それでは、3点目の質問に移らせていただきたいと思います。

コロナの問題でございます。この新型コロナウイルス感染症拡大という世界的災害とも言えるパンデミックへの対応は、困難を極めたと感じております。誰もが今まで経験のない対応を迫られましたが、特にワクチン接種に関わる職員や医療関係の方々の早い対応の努力には敬意を表したいと思います。一部ワクチンの管理上の不手際がございましたが、当町の接種率は他の自治体に劣ることなく向上し、町民を守るという姿勢を鮮明にできたと感じております。しかし、一部の職員や医療関係の方々に肉体的に、また精神的に大変なご無理をかけた側面もありました。今後もこのような事態に備えて、医療体制の強化がやはりいろんな問題で課題であると思いますが、その辺のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 古侯副町長。

○副町長（古侯博之君） 今小西議員からありましたように、本当にこの新型コロナウイルスが始まったときには、右往左往という状況はうちの町内ばかりではなくて、全国各地の世界的な部分も含めてあったことが事実でございます。その中で、何を一番先にしていかなければならないかということの中で、まずは何よりも町民の安全、安心を確保しなくてはならないということで、様々な事業も含めて始めさせていただきました。特に今お話がありましたワクチン接種につきましては、本当に最初は担当の職員の奮闘といいますか、時間というところを外した中で職員に奮闘していただきました。担当の部署だけではなくて、ほかの部署につきましても応援体制を常に図りながらやってきたと捉えております。そのことが本町にとりまして高い接種率を伴いながら推移をしている状況にあると思っております。これは、完全になくなる、終息するということは今の段階ではなかなか見えないところでありますので、今後もやはりしっかりとした体制を、庁舎内の体制もそうですけれども、町内的な、本当に各医療機関の先生方にも大変助けられておりますので、その辺のところも含めて連携体制を常に図りながら町民の安心、安全を守っていくという、そういう強い姿勢の下に今後の医療体制の構築も含めて考えてまいりたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前11時58分

再開 午後 0時58分

○議長（松田謙吾君） 休憩を閉じ一般質問を続行いたします。

10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 10番、小西です。引き続き一般質問を続けさせていただきます。

ただいま古侯副町長からコロナに対するご答弁をいただきました。このコロナ感染拡大には、私はこのワクチンの普及というのがやはり大きな鍵であると認識をしております。これからも

ぜひワクチン接種率の向上を目指して、町側として頑張っていたいただきたいと思います。これは、やはり重症化を抑えるということで、非常に重要なところだと思いますので、ぜひお願いしたいところでもあります。

次に、コロナの感染拡大による経済支援について伺いたいと思います。これまでの支援体制は素早いアンケート実施により施策を立案し、支援する業態の把握を的確に捉えてきていると認識し、評価をしております。国や北海道、町の支援もあり、経済打撃の大きさに比べ企業や事業所の倒産、廃業は低い水準にあると聞いております。先ほども同僚議員の質問の中で町内ではそういった形になっているところはほとんどないのではないかというご答弁もいただきました。しかし、今後も低迷を続ける業態やコロナ支援の融資を受ける企業や個人事業者、その返済が始まってきております。倒産、廃業は今後多くなると推察をする有識者も多数おります。再度このアンケート内容を考え直すところも必要かと思っております。その上で、国、北海道とも連携し、この融資計画の先延ばしや回数の変更など融資計画の変更でその対応を図っていかねばならないのかなと思っておりますが、その辺のところを捉まえ、町の考えを伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ただいまコロナ禍にあつてアンケート調査の話をいただきましたので、私から少し答弁させていただければと思います。

これまで10回で、今回11回目のアンケート調査をさせていただいております。アンケートの内容につきましては、一時期よりも少し好転しているといった回答も見受けられる状況になってきておりますが、総体的にはやはり数字的には厳しい結果になっているのかなと捉えているところでございます。また、今アンケートの見直しもというようなお話もありましたけれども、今回から物価高騰、燃料高騰、そういったものも新しく質問項目も追加しまして、それについてもご回答いただいたような内容になってございます。その中でもやはり原油価格、物価高騰の影響、影響があると答えた、約8割の方からそのようなご回答をいただいております。ここは本当に皆さん等しくと申しますか、どの企業、どの産業においても厳しい状況になっているのかなと思っております。このアンケート調査ばかりではなくて、1次産業も含めて、それから2次、3次も含めて各事業者、関係団体、そういった団体やそういう事業者の声を直接より多く聞いて、町としてできる対応策をこれまでもやってきているところではございますが、より以上に努めていきたいと考えておりますし、今議員の質問にありました国や北海道の部分もございまして、そういった声もまちから上げていけるようなこともできればと考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

[10番 小西秀延君登壇]

○10番（小西秀延君） 小西です。今課長から答弁がありましたとおり、物価の高騰、これもコロナ禍と併せて非常に事業者にとっては効いてきております。このコロナ禍が始まりまして、もう2年、3年とたってくるわけですが、これがボディーブローのように今事業者に効いてきております。それがコロナ禍では本当に低い水準であった倒産とかも今後、先ほども言いまし

たが、増えてくる可能性が考えられておりますので、これから支援はいろんな形で変わってくるかもしれません。それを念頭に事業者の方も動いていると思いますので、できるところの支援、国、北海道への要望等も強化をしていただいて、融資の変更とかを考えていただくような形が取ればと考えているところであります。

コロナの質問は以上にとどめます。

次に、(4)の教育のまち白老、教育関係について質問をさせていただきたいと思います。町長は、教育のまちを標榜し、子供の心の教育と学力向上を目指してやってまいりました。その政策展開の中で地域塾を進め、またふるさと教育、子供夢実現プロジェクトなど、子供の心に寄り添う地域愛の醸成、また夢を実現していく力強い意思を確立した子供の知、徳、体の育成に配慮した事業立案をしてまいりました。その事業を通じて子供の成長、発育をどのように捉えているのか伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） 私から地域塾とかふるさと教育の部分を通しての子供の成長の部分をお伝えできればと思います。

地域塾については、子供たちに地域の大人たちとコミュニケーションを図りながら、豊かな体験活動を通して豊かな心の育成を図ることを目的として、平成28年まで開催されておりました。その部分については、やはり学校の中に地域の方たちが積極的に関わっていくということが始まったことにより、学校も様々な学ぶ部分があったとも聞いております。また、やはり地域の大人たちに見守られているという安心感やその部分から、非常に子供たちも積極的に様々な人たちと関わっていたと確認しております。現段階としては、地域塾の活動というのはクラブ活動、それから白老寺子屋、ふれあいふるさとDayなどがそのまま継続展開されております。また、ふるさと教育についても心の部分も含めて、それから郷土愛を育む部分としても非常に有効であるということと、もともとふるさと学習として体験的に行われていたものを体系的なふるさと学習指導モデルで子供たちの発育に合わせながら進めてきたことにより、子供たちはやはり知、徳、体バランスよく育成されてきたと捉えております。

○議長（松田謙吾君） 伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君） 私からは、子ども夢実現プロジェクトのこれまでの成果等について答弁申し上げたいと思います。

平成26年3月に子どもと大人それぞれが役割を担い、共に信頼し合い、互いに育ち合うということを通して人に優しいまちづくりを目指すというような趣旨の下、しらおい子ども憲章～ウレシパが策定されました。この子ども憲章を具現化するに当たりまして、子ども夢実現プロジェクトという取組をこれまで進めているところでございます。この具現化に当たりましては、白老子ども議会の開催を通して次世代を担う小中学生の児童生徒に対しまして議会の民主主義の理解、そして白老町のまちづくりに関心を深めてもらうというような意見交換の中で、今後のまちづくりの参考とさせていただいたところでございます。また、子ども夢予算づくり事業というものと、あとプロフェッショナル講演会というような取組についてもこのプロジェクトの一環の中でこれまで実施をしているようなところでございます。この子ども夢予算づくり事

業の部分でいきますと、いじめや差別をなくすための活動、そして命の貴さを学ぶ学習、思いやりや感謝を伝える行動などを推進するために教育委員会において必要な予算を手だていたしました。子ども憲章推進委員、これは各学校から児童生徒の中から選出していただいた委員でございますが、この推進委員を中心とする児童生徒が自発的に事業を組立てできるように支援してまいりました。各学校におきましては、この子ども憲章～ウレシパの具現化を念頭にいじめ防止を啓発する挨拶運動とか、ポスターなどの資材購入、人との触れ合いの大切さ、そして相手への思いやりを学ぶ取組としまして異学年交流によるレクリエーションの実施等、創意工夫の取組が行われてまいりました。また、本年7月には社会を明るくする運動の期間においても、この子ども夢予算づくり事業の一環としまして、学校の生徒会が自主的に挨拶運動に参加をするなど、当然教育委員会はもちろんでございますが、青少年センターをはじめとしまして青少年育成町民の会など地域で見守る立場から見ましても、この子ども憲章にあります相手への思いやり、そして感謝の心を持ち、進んで元気よく挨拶をしていくという、そういうことができる子供たちの成長につつまして、この子ども夢実現プロジェクトの大変すばらしい効果が現れていると実感しているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 子供の心の教育という観点で、いろんな形でその裾野が広がり、子供の心の成長を遂げていく過程が形成されてきているのかなとご答弁を聞いていて感じました。ぜひ今後もその広がりをもっと大きな輪にして、子供たちの心にずっと携わった教育を広げていただければと思います。

また、町長は子供の学力のため白老町スタンダードを強化し、全国学力調査の実施など事業展開をされ、また学習環境の向上を目指し、コミュニティ・スクールの導入を推進してまいりました。それらの事業効果をどのように捉えているか伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） 学力向上に関しては、おっしゃるとおり白老町スタンダードというものが本町において学力向上の一番の柱であると捉えております。この取組については、平成23年から始まって、現在まで第3期にわたって続いておりますが、一番大きな効果としては、やはり学力向上に係る考え方というもの、白老町としてこのような考え方で進めていきますということを全学校に対して意思統一というか、意思共有が図られたことかなと思います。その中で3つの課題を解決するためにこれまでずっと取り組んでまいりましたが、一つは学習環境の改善、それから家庭学習等含めた充実、それから授業力の向上というところで、この3つについてその都度状況に合わせながら進めていくことができたと考えております。

また、コミュニティ・スクールの導入につつましては、今、より盛んにコミュニティ・スクールについて活用を充実させるというところが国としても示されている状況があるかなと思います。先ほどの地域塾が地学協働のベースになったかなと思っておりますが、この地域塾の活動も含めて、ここがコミュニティ・スクールの促進にもつながっていくものだと考えておりまして、地域の方たちが自分たちのそばにいる子供たちをよく見てくださっているのも、その方

たちのご意見が学校の中にフィードバックされることで、より学校もその状況に合わせた教育をどのようなものかということとは組み立てていけているのではないかと感じております。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 白老町スタンダードを強化していく過程がよく理解できました。その結果とも言うべき、その一つに限ることではございませんが、学力テストも向上を見せたという結果も聞いております。また、もっと地域を巻き込んでということで導入されたコミュニティ・スクール、コロナ禍の中で厳しい環境はあるとも聞いておりますが、地域の方のご意見を率直に聞けるすばらしい場になっているという現場の声も聞いております。それらのこととともに、先ほど心の教育の関係も質問させていただきましたが、この質問の最後に、我がまちの教育環境は教育のまち白老を標榜された町長の下、その施策によりどのような変化を遂げ、児童生徒はどのような成長を遂げたのか。最後に戸田町長から総括をいただければと思います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 1期目の公約に教育のまち白老をつくるという言葉述べさせていただきました。教育はなかなか点数をつけることができないので、難しいところではあるのですが、先ほど学校担当教育課長からもお話があったとおり、様々な事業を展開した中で知、徳、体。勉強だけではなくて、きちんと心も体もということで成長を促してきました。教育の成果はやっぱり大人になってからが本当の成果だと思っておりますので、今11年たって様々な事業を展開した中で、そのとき子供だった子が今社会人になって、どのように社会で活躍できるのかというのが本当の評価だと思っております。ただ、その過程でいろんな気づきを学べたと自分では思っておりますので、ふるさと白老町にまた戻ってきたい、またふるさとを大切に思う、そんな気持ちが醸成できたのかなと思っております。まちづくりも教育も終わりはないので、これからもますます発展することを願っております。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 教育のまち白老を標榜された町長の総括、よく理解できました。

それでは、大きな（5）番目、最後の質問に入らせていただきたいと思います。行政運営の総括というところがございますが、町長は就任以来11年で様々な政策を展開されました。その中で幾つかの政策を振り返り、議論をさせていただきたいと思っております。初めに、少子化に伴い、子育て環境は本会議でも議論されている大きな課題であります。その事業展開では、段階的に中学生までの医療費完全無償化に取り組みられました。この課題も多くの議論を経て実現されましたが、町民や他の政策に関連してどのような事業効果を生んだとお考えでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 様々な政策、施策の在り方の中で、子育て関係における医療費の件につきましてのご質問かと思っております。どういうふうにして、この議会の中でここに至るまでの段階で様々な子育て支援の中での目線の置き方をどこにするべきかということで議論がまずはあったかと思っております。その中で幾つかの選択肢の中からこの医療費の部分が一つの施策として

上がってきたわけです。このことは、本町におきまして、先日の一般質問にもありましたけれども、確かに利用といいますか、件数的には数は多くなってきていると。そういう中で、子育て政策については一定限の効果ということはあると考えております。ただ、これだけでやはり子育て支援の部分が完結していくわけではございませんので、これまでの様々な子育ての政策の中での要素が絡み合いながら一つ進んできているのだらうと思っています。その中で今後やはりまたどうするか、その後の中学生までの無償化から次の段階としてのありようについてはしっかりと考えていかなければならないところに来ているのではないかと認識しております。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） この中学生までの医療費完全無償化でございますが、子育て政策というものは単に子育て政策だけに限ることではなくて、白老町に新しい住民の方が来ていただける、そのような要素も一定あるのかなと考えております。副町長のご答弁で次の段階のことも考えていかれるというご発言がありました。そういう一面もぜひ考慮していただきまして、この充実はやはり図って行って、白老町に長く住んでもらえる、そして白老町に新しく住んでいただけるというような大きな政策としてつなげていただければなと思っています。

もう一つの問題です。高齢化問題につながる事業ですが、町長は公約にも公共交通の充実を掲げてまいりました。先ほども同僚議員から同様の質問もあったのですが、当町は東西に28キロにも及ぶ広い面積を有するまちであります。町民生活の足となる公共交通の強化は重要課題の一つでございます。今後の利用者の利便性向上の観点からも、先ほど高齢者の方が免許を返納されたら回数券というような事業のご答弁もありました。私からは、反対に若い方にももっと目を向けていただいて、児童生徒の通学等も検討、視野に入れていただいて、その上でこの事業全般に対しどのような見解をお持ちかお聞きしたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） 公共交通の関係でございます。先ほど来答弁させていただいておりますとおり、東西に長くということで、あるいは人口減少下において立地適正化計画とか、そういったところでも示させていただいておりますとおり、コンパクトプラスネットワークということで、このネットワークの部分、公共交通が担う役割として非常に重要だと考えてございます。通学の関係については小学校、中学校、高校と町内にはいろいろありますので、そういった中では朝の時間帯に多少配慮してダイヤを改正したというような実態はございますけれども、現状ではなかなかそれが効果としてははっきり明確にはなっていないという状況かなと思っています。若い方、通学等、それと子育て世代の皆さんにやっぱりそういった部分もご利用いただけるというのは引き続き検討していかないといけないかなと思っています。こういった地域柄ですので、自家用車で動くということもあろうかと思いますが、若年層、あるいは高齢者という振り幅の大きい対象に向けてどのような活用方法を検討していったらいいのかなというのは引き続きの課題として検討させていただきたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 白老町の人口は高齢者の方が多いので、どうしても高齢者の方の政策に向きがちですが、若い方の利用も、今後そこにもぜひ力を置いていただいで、この公共交通という問題は、白老町は人口が少なくなっていくと思いますが、よりこれは重要度が増してくる問題だと思いますので、引き続きご検討をお願いしたいと思っております。

もう一点の懸案に移りたいと思っておりますが、病院の問題でございます。2年後には新しい病院としてスタートを切ることが戸田町政で決定されました。これはずっと懸案になってきている問題でございますが、病院の経営問題もずっと懸案になってきております。これは2つを併せて、これから2年後にスタートする新しい病院、この未来をどう創造していくか、どう変えていくかということが、今現状が起点になっていると考えております。そのご見解を伺いたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 古侯副町長。

○副町長（古侯博之君） 本当にこの病院の問題につきましては、戸田町長就任以来大きなまちの課題として、そこには紆余曲折がありながら、最終的には今改築に向けて進んでいるところでございます。町長が一番の決断をされたことについては、やはりこれからまちを存続していくというか、持続可能なまちづくりのためには町民の皆様方の健康、そして医療をしっかりとしていかなければならないと。そういうまちでなければ、町長が標榜する町民の笑顔が輝くまちにはならないと。そういう中での、いろんな面で私もそばに一緒にいながらこの問題に取り組みせてもらいましたけれども、本当に苦悩もありながらの一つの大きな決断でありました。

それで、今後どうするかということでございます。確かに今回の補正予算の中でも多額な繰り出しをしなければならぬ状況も事実としてあります。その経営の在り方について、やはりこれまでと同じような目線の置き方ではきっとならないだろうなということは重々承知しております。例えば今年の10月から始めさせていただきました包括ケアの病床、今の段階では12床なのですけれども、回復期に向けた病床が今非常に大きな効果を生み出してきております。そんなことも含めて、新たな病院の姿といいますか、これから町立病院がどうしていかなければならないかという辺りはさらに議論を含めて、町内の患者のみならず、この周辺の患者の皆さんが回復期の一つの病院としてこちらに、町立病院に来ていただけるような、そういう地域連携の活用も含めて考えていかなければならないと思っておりますし、今年からというか、整形外科の先生も獲得しております。それにプラス、やはり今までの議論の中でありました終末期の医療をどうするか、在宅医療の部分、その医師の獲得もこれからの経営の大きな部分になってくるかというか、経営の部分と関わってくるのではないかなと思っております。そういうところでつくり出しを、新しい病院は本当に目の前に来ておりますので、さらに精度を高めながら病院づくりのありようについてはしっかりと検討を図ってまいりたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 10番、小西秀延議員。

[10番 小西秀延君登壇]

○10番（小西秀延君） 5番の行政運営の総括の中で、長く懸案であった事業を幾つか質問させていただきました。いずれも、結果がどうだったということではなくて、これからもそれは続いていくことだと思いますので、そこに一定の方向性をつけることができたのかなと私は見

ておりまして、この質問をさせていただきました。

私の最後の質問になりますが、何もなければ町長に対する一般質問はこれが最後になると思います。町長は来年1月中旬に辞職され、新たなステージに挑戦すると聞いております。これまでの町長としての職責について、今行政の総括ということで幾つかの事業を取り上げさせていただきましたが、それ以外でも構いません。町長として町民に発する最後の答弁として伺っておきたいと思います。そして、次のステージでのご活躍を祈念し、私の一般質問をこれで終わりにしたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） この答弁で一般質問は本当に最後だと思います。本当に皆様方には大変お世話になり、感謝を申し上げたいと思います。町長になる前から教育という言葉が私の行動全ての柱でありまして、教育が経済、福祉、社会全体の柱だと今でも思っております。学校教育だけではなくて、家庭教育や社会教育、地域で支える教育、たくさんの教育があると思いますけれども、まちづくりは人づくりからという言葉があるとおおり、人づくりが一番大切だと思っております。そんな中で、任期の途中で町長職を辞職するというのは町民の皆様には大変申し訳なく思っておりますが、白老町が発展できるようにまた新たなステージでチャレンジをしたいと考えております。この12月会議の一般質問でいろいろお話をさせていただきました。様々な課題の解決に進んだものもありますし、まだまだ未解決のものがございます。これからの白老町も人口減少、少子高齢化も進んでいきますし、公共施設の老朽化対策も待ったなしの状況でございます。スクラップ・アンド・ビルドの中にこれからのまちづくりは必ずデジタル社会が入ってくると思いますので、人とAIも含めたデジタルの社会で問題解決をしていただきたいと思っておりますし、根本的には自治基本条例の中にある町民が主役のまちづくりというのは、ずっとこれは永劫変わらないと思っておりますので、町民が主役になることを念頭に様々なまちづくりにつながっていけばいいなと思っております。

私は町長ではなくなりますが、これからも、新しい町長とまた議会の議員の皆様、そして町民の皆様と白老町の発展にご尽力いただければと思ひまして、私の最後の答弁に代えさせていただきます。大変お世話になりました。

○議長（松田謙吾君） 以上をもって、10番、会派いぶき、小西秀延議員の一般質問を終了いたします。

これをもって一般質問を終結します。

◎散会の宣告

○議長（松田謙吾君） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

ここであらかじめ通知いたします。本会議は明日10時から引き続き再開いたします。

本日はこれをもって散会いたします。

（午後 1時33分）

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

議 長 松 田 謙 吾

署 名 議 員 前 田 博 之

署 名 議 員 森 哲 也

署 名 議 員 大 淵 紀 夫